

平成28年度 大学図書館近畿イニシアティブ
初任者研修 5月27日 10:05-10:55

情報リテラシー教育

京都大学附属図書館 利用支援課
利用支援掛主任 坂本 拓

目次

- ・ 情報リテラシーという概念
- ・ 京都大学の情報リテラシー教育の事例
- ・ 情報リテラシー教育で心がけること

情報リテラシー教育とは？

~~図書館
利用教育 = 情報
リテラシー教育~~

~~図書館
利用教育 ≤ 情報
リテラシー教育~~

図書館
利用教育 < 情報
リテラシー教育

情報リテラシーとは？

情報リテラシーの定義

「情報が**必要なときに**、それを**認識し**、必要な情報を**効果的に見つけ出し**、**評価し**、**利用する**」ことができるように、個々人が身に付けるべき一連の能力

ACRL (2000. 1. 18)

Information Literacy Competency Standards for Higher Education

「高等教育のための情報リテラシー能力基準」

<http://www.ala.org/acrl/sites/ala.org.acrl/files/content/standards/InfoLiteracy-Japanese.pdf>

情報リテラシーとは？(2)

「高等教育の学びの場において必要と考えられる
情報活用能力」

すなわち・・・

- ・ **課題を認識**する能力
- ・ その解決のために**必要な情報を探索し入手**する能力
- ・ 得られた**情報を分析・評価、整理・管理**する能力
- ・ 得られた**情報を批判的に検討**する能力
- ・ **自らの知識を再構造化**する能力
- ・ それを**発信**する能力

情報リテラシー

図書館の
使い方

コンピュータ
リテラシー

データベースの
使い方

プレゼンの
スキル

著作権の
知識

引用の
ルール

論文・レポート
の書き方

ビジネス
マナー

その他いろいろ

今日の大学が置かれている状況

「待ったなし」の教育改革(1)

[東日本大震災以降] 地域社会や産業界は、今後の変化に対応するための基礎力と将来に活路を見いだす原動力として、有為な人材の育成や未来を担う学術研究の発展を切望している

[中略]

大学関係者等は、学士課程教育の質的転換が「待ったなし」の課題であり、若者や学生、地域社会や産業界を含め、**社会全体にとって極めて切実な問題**であることを改めて認識する必要がある。

「待ったなし」の教育改革(2)

[そのために]

従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、**教員と学生が意思疎通を図りつつ**、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、**学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）**への転換が必要である。

中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』（答申）2012

「待ったなし」の教育改革(3)

[そのために]

当該大学の学位授与の方針の下で、学生に求められる能力をプログラムとしての**学士課程教育を通じていかに育成するかを明示**すること、プログラムの中で個々の授業科目が能力育成のどの部分を担うかの認識を担当教員間の議論を通じて共有し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的な教育を展開すること、**プログラム共通の考え方や尺度（アセスメント・ポリシー）に則った成果の評価、その結果を踏まえたプログラムの改善・進化という一連の改革サイクル**が機能する全学的な教学マネジメントの確立を図る。

中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』（答申）2012

京都大学 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学士課程

1. 豊かな知性と人間性を育む教養教育を実施し、新たな知の創造につながる専門教育を積み上げ、社会の各方面で指導的な役割を果たしうる人材を育成する。
2. 多様でかつ調和のとれた教養教育を実施し、高度な教養と豊かな人間性、強固な責任感と高い倫理性を得させる。
3. 高等学校教育からの連続性に留意した基礎教育を実施する。その上に専門的知識を修得させ、総合的判断力の基礎となる知力を確実に育成するとともに、最先端の研究の場での積極的な活動を通じて専門的知識を深化させる。
4. 地域社会、そして全地球的な環境において指導的な活躍ができるよう、その基礎となる国際的視野や異文化理解能力、そしてコミュニケーション能力を養わせる。
5. 社会の変化に際しても自主的、積極的に対応できる能力を獲得させるため、対話を根幹とした自学自習の姿勢を効果的に修得させる。

アドミッション・ポリシー

どのような学生を入学させるか

カリキュラム・ポリシー

どのように学生を教育し成長させるか

ディプロマ・ポリシー

どのような基準で、学生を卒業させるか

これに合致した「情報リテラシー教育」は
大学内でアピールできる！

京都大学附属図書館の 情報リテラシー教育の事例

■ 新入生対象(1)

○ 全学支援機構ガイダンス

- ・ 情報環境機構、図書館機構、環境安全保健機構の3組織による合同ガイダンス
- ・ 平成27年度から開始



■新入生対象(2)

○スタンプラリー

- ① 京都大学附属図書館の、館内の各ポイントを回ってスタンプを10個集めてもらう。
- ② 10個のスタンプの箇所に数字が書かれており、全て集めるとISBNになっているので、それでOPACを検索してもらう。



■ 教員との連携(1)

○ 全学共通科目

「コンピューターリテラシー演習」の1コマ

(年間合計7コマ)

内容

- ・ Googleで調べられるものと調べられないもの
- ・ 図書/論文/新聞 など資料種別の特徴
- ・ OPACの検索(ワイルドカード)
- ・ 日本語論文の検索
- ・ 文献の引用の方法と文献管理ツール 等

■ 教員との連携(2)

- 全学共通科目「英語IB」の1コマにて、英語にて実施。(1週間合計10コマ)

内容

- ・ 論文・レポートを書く際に根拠にできる情報源
- ・ OPACの検索
- ・ 英語論文の検索(Web of Science)
- ・ 電子ジャーナルの利用方法 等

■ 教員との連携(3)

他に、2015年度は7名の教員から
全学共通科目やゼミでの講習の依頼

農学部、教育学部、文学部、経済学部 等

- ・ 毎回、教員からのリクエストが変わる
- ・ 学部ごとに、例題の作り直しが必要

全学共通科目

「大学図書館の活用と情報探索」

- ・ 半年間、全14コマの講義と演習
- ・ 4人の教員と約10人の図書館員で作り上げる
- ・ OPACの検索から始まり、4回のグループワークを経て、最終的には、レポートが書けるように

「京大の中で、ここまで**アクティブ・ラーニング**が実現されている授業は他にないよ！」

担当教授談



■ 定期講習会

ほぼ毎月、下記5つの講習会を別々の日に開催

- OPAC の使い方 (30分)
- 日本語論文の探し方 (30分)
- 英語論文の探し方 (45分)
- 文献管理ツールの使い方 (45分)
- レポート・論文執筆のための調べ方講座
(60分)

新しいこころみ(1)

学生スタッフによる講習会

「とっておきの図書館活用法」

「海外の新聞の探し方」

会場：ラーニングコモンズ

講師：学生サポートデスクのスタッフ(院生)

内容：院生のスタッフに、自分の研究と絡めながら、実際に論文や新聞のデータベースをどのように使っているか、を話してもらう。

新しいこころみ(2)

研究倫理の講習会

「公正な研究のために知っておくべき著作権

-あなたの論文・レポートが不正扱いされないために」

内容

- ・ 不正なレポートや論文を提出するリスク
- ・ 著作権法の解説
- ・ 「適切な引用」の説明
- ・ 文献管理ツールの紹介



今後の課題

○最適な開催時期の見極め

○業務の合理化

・ 以前の悩み

図書館だけでやっても人が集まらない . . .

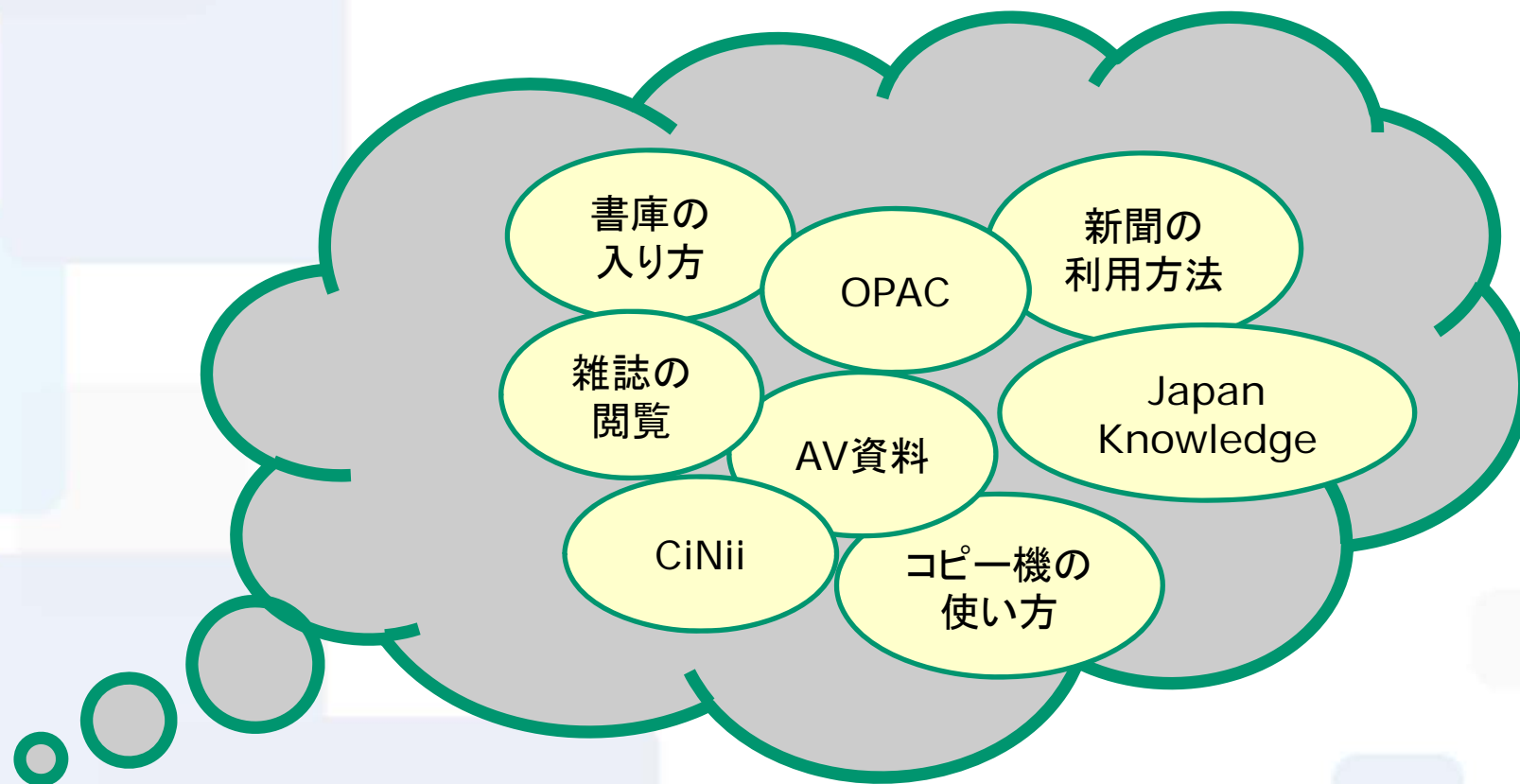
→ 教員と連携できないか必死に模索

・ 現在の悩み

次々に先生から頼まれるけど、図書館の人員も減り、
もうこれ以上は受けきれない . . .

情報リテラシー教育で心がけること

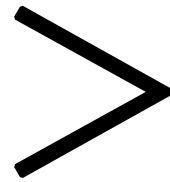
心得その1：講習会は「引き算」



無理にたくさん詰め込んでも、逆に何も残らない!
持ち時間で本当に伝えるべきことだけに、絞り込む!

心得その2：徹底的に客観的

自分が伝え
たいこと



学生に伝え
るべきこと

いつの間にか、こうなっちゃうことが・・・

常に、冷静に自分を客観視し、本当に学生に伝えるべき内容になっているか徹底的に確認する。

心得その3： デザインは、“Simple is Best!”

- ・ デザインに凝れば凝るほど、自分のテイストが出る
- ・ たとえ90%の人が親しみを感じるスライドでも、10%の人が拒絶感を持つようなデザインはNG！

情報リテラシー教育は、
利用者といっしょに自分も成長できる
楽しいお仕事！

坂本 拓
sakamoto.taku.7s@kyoto-u.ac.jp